

平成29年度 学校経営計画に対する最終報告書

石川県立羽松高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の取組（改善策等）
1 生徒一人ひとりの能力に応じたきめ細やかな学習指導により、基礎学力を養い、学校全体の質の向上に努める。	① 基礎学力の定着に向け、各教科で「授業が分かる」と生徒が思う授業づくりの工夫をする。	授業が理解でき、基礎学力が向上していると思う生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	B (87%)	7月に行われた生徒による授業評価アンケートでは、A評価「とてもあてはまる」とB評価「ややあてはまる」の合計が91%であったのに対し、12月のアンケートでは87%と4ポイント下がった。一方で、A評価である「とてもあてはまる」だけを比較すると、12月のアンケート結果では3ポイント上昇している。目標としていた90%には届かなかったが、学校全体で生徒の基礎学力定着に向け、「生徒が分かる」授業づくりの工夫をしてきた。次年度はより一層授業改善に力を入れ、生徒の基礎学力の定着・向上図っていききたい。
	② 授業力の改善や教員としての資質の向上を図るため、校内外への研修に積極的に参加する。	校内外への研修に A 7回以上参加した。 B 6回参加した。 C 5回参加した。 D 4回以下であった。	A=50.0% B=12.5% C=12.5% D=25.0% (A+B=62.5%)	集計結果はすべて前年度と同じ割合であり、引き続き高い割合で教員は研修に参加している。ICT機器等の活用の仕方の研修にも積極的に参加することで、授業が改善され、生徒自らが学習していこうとする姿が多く見られるようになったと思われる。今年度定時制通信制高校の連携による研究授業の参加率が高くなかったため、来年度はこの研究授業の参加をより積極的に促していきたい。
	③ 生徒が意欲的に学習に取り組めるよう、ICT機器を効果的に活用し、授業改善に努める。	積極的に授業に参加していると思う生徒の割合が A 75%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。	A (91%)	最終の生徒による授業評価アンケートでは、「とてもあてはまる」「ややあてはまる」の合計が91%と高い評価になった。この結果から、積極的に授業に参加する生徒が増加していることがわかる。また、夏季休業中に実施している基礎学力補充では、自ら参加したいと希望してきた生徒数が今年度は例年を大きく上回っていた。このことから、生徒たち個々の学習意欲が向上していることがわかる。懸案であったICT機器の活用の中でも、タブレット端末については、夏休みの校内研修以降、各教科において使用率も上昇しているが、依然として積極的な活用にはなっていない現状がある。次年度も、効果的な活用を働きかけていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	生徒の実態に合わせ、タブレットなどのICT機器を効果的に活用してほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	ICT機器については、年度ごとに県教育委員会から決められた台数が配備されることになっており、その台数に応じて効果的に授業に活用していく。			
2 基本的生活習慣を確立するとともに、いじめや暴力行為等の未然防止の取組を充実し、規範意識の向上を図る。	① いじめや暴力、スマホ・携帯電話等を介した不適切な書き込みの未然防止のための集会や研修等の充実を図る。	スマホ・携帯電話等に関する苦情・相談件数が A 0件である。 B 1件である。 C 2件である。 D 3件以上である。	D (4件)	校内におけるスマホ・携帯電話等に関する苦情・相談件数は2件あったが、そのいずれも生徒同士の些細な感情の行き違いが原因となったもので、双方が自分の非を認め、その後の交友関係も良好である。ただ、残りの2件の相談は、学校を離れた生徒の私生活におけるもので、これらに関しては、保護者と共に解決策を模索し、家庭でしっかりと見守ることのできる協力を得て対応にあたった。 次年度
	② 服装や行動様式に関して適切に実践できるよう、個別指導を充実する。	服装や髪型等のきまりを意識して行動していると思う生徒が A 90%以上いる。 B 80%以上いる。 C 70%以上いる。 D 70%未満である。	A (A+B=91.5%)	最終の授業評価アンケートでは「とてもあてはまる」「ややあてはまる」の合計で、評価の高かった前期7月期の95.2%と比較すると、3年次生の「全くあてはまらない」と答えている1人の生徒分が減少して91.5%となった。服装や髪型等のきまりを守って学校生活をおくることが、ただ単に「生徒心得」に示された高校生らしい生徒像に近づくということだけでなく、進路実現の後につづく社会人としてのマナーの一端であることを理解してもらえなかったと考えられる。このように規則遵守の精神に欠けたり、全く努力しようとしなかったりする生徒への方策を検討しながら、全体の底上げを図っていき、規範意識の向上を目指したい。
	③ 基本的生活習慣を確立するため、家庭との連携を密にするとともに、朝食摂取習慣の定着を目指し、指導を工夫する。	朝食を毎日食べる生徒が A 70%以上いる。 B 60%以上いる。 C 50%以上いる。 D 50%未満である。	A (70%)	12月授業評価アンケートでは全体平均が70%（1年生が85%、2・3・4年生は60%以上）と改善した。しかし12月実施のステップアップ（生活習慣）アンケートでは、毎日朝食を食べると答える生徒が学年平均で64%であり、定着したとは言えないようである。 3・4年生で、今まで1度も朝食を食べる事がなかったが食べる努力をするようになったと答え、体調が改善したと言う生徒が複数いる。 食事の栄養バランスに課題のある生徒もおり、今後は1～2日間で食事バランスを回復する事についても丁寧に繰り返し説明し、バランス良い食事が摂れるように指導を継続したい。
学校関係者評価委員会の評価	スマホ・携帯電話等に関する苦情・相談件数が4件あり、その対応について十分配慮してもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	比較的軽微な事案が件数として報告されたが、1件ごとに丁寧に対応していく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の取組（改善策等）
<p>3 教育活動全体を通じて主体性やコミュニケーション能力等の社会性を身に付け、社会人として必要な基礎能力を育む。</p>	<p>① 生徒が自主的に活動し、自分の考えを発言できるよう、授業にアクティブラーニング等を積極的に取り入れる。</p>	<p>授業中、自分の考えや意見を述べる事ができる生徒の割合が、 A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。</p>	<p>A (83%)</p>	<p>年度当初から、アクティブラーニング等を取り入れた授業を学校全体で行っていることもあり、最終評価において83%という結果となった。これは、習熟度別授業による少人数学習など、生徒へのきめ細かな指導により、生徒自身に自己肯定感が芽生え、教室が発言しやすい環境となっていることも、起因していると思われる。次年度も引き続き、生徒たちが安心して自分の意見を言える環境を作り、主体的・積極的に生徒が活動する場面を多く取り入れ、一層のコミュニケーション能力の向上を図っていきたい。</p>
	<p>② 定通大会、体育祭、文化祭、球技大会等において、他の課と協働して、生徒一人ひとりが、主体性を持って取り組み、自己有用感と協調性を高める工夫をする。</p>	<p>定通大会、文化祭、球技大会等の各種行事に、 A 積極的に取り組んだ。 B だいたい取り組んだ。 C あまり取り組まなかった。 D ほとんど取り組まなかった。</p>	<p>A=68.1% B=27.7% C=4.3% D=0%</p>	<p>7月の自己評価アンケートでは、「とてもあてはまる」+「ややあてはまる」が97.6%であった。12月のアンケートでは、95.8%で1.8%減少した。しかし、昨年度と比べると11.8%増加しており、生徒たちが各種行事に積極的に参加していたと考えられる。7月の自己評価アンケートより減少したことから、来年度は後期の学校行事の内容を精査したり生徒の実態を把握したりして、さらに生徒一人一人が積極的に行事に参加できるように工夫・改善に努めていきたい。</p>
	<p>③ 安心安全な学校づくりの環境としての避難訓練等の行事において、生徒が意義を理解し主体的に振り返れるように指導する。</p>	<p>振り返りで課題を検討できた生徒の割合が、 A 70%以上である。 B 60%以上70%未満である。 C 50%以上60%未満である。 D 50%未満である。</p>	<p>A (98%)</p>	<p>授業評価アンケートでは 避難訓練、原発防災訓練などの安全に関する行事について、その内容を理解し、積極的に取り組んでいる、との質問に「とてもあてはまる」「ややあてはまる」とした合計が98%であった。参加への意識は高く、数字的には高い結果となっているが、振り返りの深い課題検討には今後も指導を要する。アンケートの個人記入欄への個々の課題、意見記入は少なかった。今年度は羽咋市、宝達志水町で不審者情報が続出した。通学路、アルバイト先からの帰路の課題があるが、今後も安全管理やその対策への意識付けに対しさらに丁寧な指導を続けていきたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>式典等で生徒達が以前にも増して校歌を大きな声で歌うようになったと感じられる。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>引き続き生徒一人ひとりに声かけをして、生徒全員が大きな声で歌うよう指導していく。</p>			
<p>4 キャリア教育を推進し、就労意識を高めるとともに、一年次からの進路指導を充実し、卒業生徒全員の進路実現を目指す。</p>	<p>① 各学年ごとに進路行事を計画的に実施し、進路意識の向上を図り、各自が進路目標を決定する足がかりにする。</p>	<p>具体的な進路目標を持っている生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。</p>	<p>B (85%)</p>	<p>最終の生徒アンケート結果では「とてもあてはまる+ややあてはまる」が85%となり、昨年より多少増加したが、「とてもあてはまる」の割合は、昨年より増加している。「あまりあてはまらない+まったくあてはまらない」と答えた割合は、27年度35%、28年度23%、29年度は15%と年々進路目標を持っていない生徒の割合は減少してきている。今後、丁寧に追跡したアンケートを行うなど、指導を充実しさらなる進路意識の向上を図っていきたい。</p>
	<p>② 生徒および保護者の進路志望を実現するため、関係機関との連携を密にし、生徒の能力・適性を生かした進路決定に努める。</p>	<p>進路実現率が A 100%である。 B 90%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。</p>	<p>C (70%)</p>	<p>卒業予定者10名の進路希望は、進学希望3、就職希望4、その他3名である。希望先の決定に時間を要した生徒もいたが、面談や保護者との相談・連絡を密に進めた結果、進学希望者全員が第一志望の学校に合格した。就職希望者4名のうち3名が内定を得、残り1名は就職活動中である。次年度以降は、就職希望者は早めに取り組むようにし、生徒一人ひとりの実態に応じて関係機関と連携するなど、さらなる進路指導を充実させていきたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>生徒の進路意識については、できる限り早期に外部人材を活用するなどしてその高揚を図ってほしい。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>インターンシップや「おもてなし講座」などの機会を捉えて、進路に対する意識が高まるよう指導していく。</p>			